







# 石材に刻み込む 生きたる教訓

一念・社會奉仕の熱意に燃える

## 石材業河田晃二氏

「新東京」コツ／＼と極を振ふ一介の石材商が社會奉仕の一途に燃え生きた教訓を投げかけ聞くものをしていたく感服せしめてゐる、新東京大和通三三河田晃二さんが究

誠の主で昨年新東京社社の外観を整備することになり一般市民から御礼を蒙つて玉垣、結婚式殿などに手を入れた際、全副に誇る大馬居を造るべく關係者間では頗る意氣込み工事請負の人々を物色したが「これだけの仕事では少くとも三萬圓費はわば引き合はぬ」と幾息の荒い聲を見せたがこれを傳へ聞

ら餅米百俵を買ひ込み寄附した歸の人々をいたく感服せしめた、目下は菊城子に石地蔵を寄附するべくコツ／＼日夜極を振つてゐる河田さんは岡山縣北木島村に生れ祖先代々石材商の家で厳格な家庭に育つて幼少の時から使用人なみに苛酷な程コキ使はれ銀はれただけに相當な地位を獲得した現在でも自ら監督者となり半纏一つで腰や極を振ひ廻つてゐる、二十四歳の時意を決して

「新東京」窮困に喘ぐ一般に新東京地方事務所及び在が一際立って温かい手べて十二月十三日から催す同僚週間は大成功裡に末同僚週間は大成功裡にことは難儀の如くである情の痛つた尊い金儲が陸

るがコツ／＼働いた苦も妻かつた過去が身に沁のため出来るだけ彼に々と念願して遂に前記美画に至つたものである

同情週間に織込む美談







